


(2) 学校設定教科「地域みらい学」(5教科)

ア 「ひょっこり表現島(国語)」

実施学年・単位数	2年生 2単位
設置理由	地域言語を用い、地域独特の表現を深く理解することにより、より多彩な「伝える力」や「表現力」を育成する手立てとするために設置する。
科目目標	地域言語を深く学び、身近な言葉を大切にしながら表現力を高める。
今年度の取組	<p>[方言の多様性を感じる活動]</p> <p>全国で使用される方言を聞いたり、方言で読まれた文学作品を鑑賞したりすることにより、方言の多様性を感じる活動を行った。</p> <p>[方言創作]</p> <p>既存の作品を「大槌の方言」や「岩手の方言」でリメイクしたり、オリジナルのカルタを作ったりする活動を行った。自分たちが使用している方言を用いながら創作活動を行うことにより、方言の面白さに触れ、同じ地域でも多様な表現があることに気づくような活動を行った。冬休み前までにリメイク作品を完成させ、冬休み中に地元の方言プロである高齢者の方々に添削をしてもらってブラッシュアップを図った。さらに、ブラッシュアップしてもらった作品を用いて、高校生が小学生に向けて授業を行うコラボ企画を行った。今後、カルタについては大槌町の図書館に設置する予定。</p>  
現状の成果と課題	<p>[成果] 多世代交流を行ったことで、コミュニケーションの力が向上した。日常的に高齢者や子どもとふれあう機会がない生徒にとっては、かなり勉強になったようだ。実際に交流してみると、困難や課題があったようだが、事後アンケートからは自分自身の成長を感じられたという内容があった。また、高齢者の方からは「元気をもらった」という話をもらったり、小学生からは「活動が楽しかった」という話をもらったりしたことにより、自己肯定感の醸成にもつながった。</p> <p>[課題] 既存の作品を用いたことによって、著作権を意識した交流を考える必要があった。校内での教育活動では使用できるが、外部に対する発表はできないため、交流自体が難しかった。そのため、情報モラルの指導を行いつつ、生徒と一緒に改善方法を考えて授業を進めた。</p>
今後の取組	今回は既存の作品をリメイクしたり、オリジナルカルタを作成したりと、「書くことによる表現」に焦点を当てて創作活動を行ったが、コントや演劇などの「話すことの表現」活動にも幅広く応用できると感じられた。生徒の発表力や表現力をどのように伸ばすのかを考え、柔軟に検討したい。

イ 「まちづくり探究(地歴公民)」

実施学年・単位数	3年生 2単位
設置理由	複雑さが増す社会においては、正解が一つに定まることはなく、様々な課題(矛盾・葛藤・衝突)が生まれる。課題の解決は容易ではないが、それぞれの主張の背景を理解しながら、解決の方向性を探る力が求められる。
科目目標	身近なテーマから地域や日本・世界にある課題に関する背景やそれぞれの主張を理解し、想像することができるようにすることで、人間関係の調整や人間関係に係る課題の解決能力向上を図る。
今年度の取組	<p>4月から6月は、チームとして話し合うために必要なことや資料の読み解き方を学んだ。「犬と猫どちらを飼うべきか」というテーマで話し合った。6月から9月は、データの読み解き方を学び、「マンガの原作をアニメ化すべきか」、「大槌町にどのような公園をつくりたいか」というテーマで話し合った。</p> <p>9月から11月は、学校の課題について考えた。現在学校生活で問題と思われることを各グループでアンケート等の根拠をもとに主張し、校長へのプレゼンを行った。11月から3月は町の課題について考え「若者の投票率を上げるにはどうしたらいいか」、「立候補者を増やすにはどうしたらいいか」について解決策を考え、町の選挙管理委員会の方にプレゼンを行った。</p>
現状の成果と課題	<p>[成果]自らの主張を行う際に、データやアンケート結果を活用して根拠の提示ができるようになった。また、反論を想定し、それに対する対策まで考えられるようになってきている。</p> <p>[課題]課題解決案がみな同じような意見になってしまう。他の意見に賛同するのではなく、立論力を高め自らの考えを生み出し、主張できる能力を育てていきたい。</p>
今後の取組	今後も導入は身近な問いにしながらも、最終的に民主主義制度や人権について考え、町政や復興に関わり、意思決定などについて考える機会を設けたい。



ウ 「くらしmath(数学)」

(*令和4年度)

実施学年・単位数	2年生 2単位
設置理由	生活をする中で気づかぬうちに様々な分野で数学の知識が活用されている。具体的に身近な分野で活用されている数学を学ぶことにより、数学の良さを認識するために設置する。また、数学を用いて暮らしの中にある課題を発見し、解決しようとする態度の育成を目指す。
科目目標	身の回りにある事象について、数学を用いて考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用して生活に役立てる態度を育てる。
今年度の取組	<p>前期は、「根拠を持って判断をする」ための演習として、客観的なデータや数値に基づいて判断をする場面(生活費、コマづくり等)や、最適解が見つからない問に対して複合的な視点で考える場面(求人票の比較、宝くじの分析等)を設定し、学習した。また、データを用いて探究するための基礎技能として、グラフの活用・アンケート調査・Excelの扱い方について学んできた。</p> <p>後期は、グループ毎に自由に問を立て、統計・データを活用し考察するレポート課題に取り組んでいる。「大槌町と塩分摂取量」、「大槌町の遊ぶ場所と満足度」、「大槌で再開された祭への参加」などの町と関連したテーマでレポートを進める班も出てきている。</p>
現状の成果と課題	<p>[成果]主観的で単一的視点になりがちであった多くの生徒の記述内容が、徐々に客観的・複合的な視点に変化が見られる傾向にある。</p> <p>[課題]今年度の環境においては短いサイクルの学習では、「考察する」段階まで思考を深めることは難しく、自由度の高い学び(自由なアイデアを生かす)・探究(深く考える場面設定)・多数のジャンルに触れる(短いサイクル)の3点の両立は実現できていない。</p> <p>今年度後期は長期間の時間を確保することで、自由度の高いテーマ活動で深い考察をすることを目指している。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に目を向けることができているグループに対して、よりよい地域のデータを得ることができるようサポートする。 ・集めたデータから知見を得ること、そして次の問い・調査に繋げる部分の伴走をする。



エ 「おおつちラボ (理科)」

実施学年・単位数	3年生 3単位
設置理由	既習の理科科目の内容を日常生活と関連付けることで、より深い理解の定着を目指し設置する。特に課題解決学習に取り組むことで問題に対しての仮説設定や、実験・検証方法を自ら模索し科学的課題への関心、理解を深める。
科目目標	理科的、科学的な学習内容を活用し、身近な理科的、科学的課題を自ら仮説を立て、実践を行うことで、各分野の知識を統合し自ら課題を解決する姿勢を身に付けるようにする。
今年度の取組	<p>日常生活の中での「便利・不便」に感じることや「不思議」なことから、テーマを設定し、仮説を立て、調べ学習によって検証する過程を学んだ。「食品添加物」や「デザイナーベイビー」などの科学的事実・現象に対し、賛成・反対の意見を示しながらグループで討論を行い、科学的知見を用いて賛否の折衷案を探る体験を行った。</p> <p>地域課題とSDGsに注目し、17項目ある中で「海の豊かさ」や「飢餓をゼロに」をテーマに大槌町の増養殖に関する取り組みについて現状把握を行った。町内のフィールドワーク（岩手大槌サーモン養殖視察）を通じて、取り組みの成果と課題について学んだ。また、廃棄される雑魚を活用した「骨格透明標本」の展示会場の視察を行い、様々な視点でSDGsに関わることができることを学んだ。</p>    
現状の成果と課題	<p>[成果]調べて終わるのではなく、根拠となるデータを用いて議論を行うことで、自分の言葉で論理立てて理科的に説明する力や、自身とは相対する意見についても耳を傾ける姿勢を身に付けた。またSDGsについての理解が深まり、地域の持続可能性に対する課題についても自分なりに調べる力がついた。</p> <p>[課題]疑問や違和感を持つ土台となる理科的な知識不足があり、テーマを自分で見つけることが難しい生徒が多い。大槌という地域には考えるテーマが多くあるが、自分なりに興味を見出し、噛み砕くことができるような基礎的な学力が必要となる。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・大槌サーモンについての取り組みは次年度以降も継続したい。 ・郷土財エリアなどを題材に、ビオトープづくりに携わることで自然保全について考える機会となる授業を組みたいと考えている。 ・次年度以降も担当教員の専門性を活かし、大槌・釜石管内のフィールドワーク先を検討していきたい。(新山高原の風力発電施設、ジビエ関連の取り組み、製造業種の地元企業等)

オ Eパスポート（英語）

実施学年・単位数	2年生 2単位
設置理由	英語コミュニケーション 及び論理表現 の学習内容を相互に関連付け、教科書では扱わないテーマや場を設定し、発展的な英語によるコミュニケーション能力を育成するために設置する。特に5技能（「読む」「書く」「聞く」「話す（発表・やりとり）」）をバランス良く取り入れ、多様な場面での実践的な英語コミュニケーション能力のさらなる育成を重視する。
科目目標	英語コミュニケーション 及び論理表現 の学習内容を統合させ、多様な場面における実践的な英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。
今年度の取組	<p>前期で身に付ける資質能力をジブンゴト・課題設定と置き、ネイティブスピーカーの故郷であるカナダ・トロントに「留学をしてみる」ことをテーマに、税関、ホテル、ホストファミリー、医療機関、買い物など様々な場を設定して会話練習を行った。ドルから円（その逆も）への計算も英語で行った。生徒たちは自分の伝えたいことを英語にして、英語を母語にする人にもコミュニケーションを取ることができることを学んだ。</p> <p>また、前期の最後では海外で働くための面接試験を英語で行い、英語をとおして自分の進路に必要なことを考えさせた。</p> <p>後期は今後留学生に自分の学校や町、さらに岩手県を英語で紹介する場を設定し、異文化理解をテーマに英語圏の校則や、クリスマス、正月の過ごし方について他国のゲスト（カナダ、フィリピン、台湾、英国）を招いて様々な交流をした。また、バレンタインデーの由来や本当の意味についても教育用ゲームのプラットフォーム（Kahoot!）を利用しながら、楽しく学んだ。</p>
現状の成果と課題	<p>[成果] 将来的に外国の方とコミュニケーションを取ろうとするために必要な学び続けるために、基礎的な態度を身に付けることができた。また、ショッピングや入国審査などの身近なテーマを題材にすることでより真剣に取り組む様子が見られた。インタビューテストやプレゼンテーションも実施できた。</p> <p>[課題] 基礎的な英語コミュニケーション能力を育成するため、5技能のバランスをどのように取るかが課題である。また、どの教員が担当しても一定の成果があがる妥当性、持続性についても今後対応していく必要がある。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に向けた大槌の紹介映像やHPの英語版製作に取り組みたい。また、より身近なテーマについて英語で表現する機会を設けたい。 ・コラボスクールとの協力を得ながら姉妹都市であるフォートブラッグとの連携を図りたい。



4 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 資質・能力調査について

◆調査概要

本校ではすべての教育活動を通して「大槌高校魅力化構想骨子」で設定した目指す人物像の3つの柱である「自立」「協働」「創造」を育てていく。令和2年度より、目指す人物像について9つの資質・能力の育成指標を設定し、年2回(5月・2月)の4件法アンケートにより調査を行っている。

アンケート結果の詳細は【表2】参照

	No	資質・能力	内容
自立	1	ジブンゴト	三陸地域の復興や自身の未来に向けた意志をもつ
	2	課題設定	問題解決のために取り組むべき課題を明らかにする
	3	自己調整	学習の過程や結果をもとに、学び方を自律的に調整する
協働	4	共感・相互理解	価値観や意見の違いをみとめ、受け入れる
	5	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む
	6	リーダーシップ	他者に対して前向きに働きかけ、動かす
創造	7	レジリエンス	困難な状況でもプラスに考えて乗り越える
	8	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす
	9	チャレンジ	失敗をおそれず積極的に物事に取り組む

◆調査結果

令和5年度も、5月に1回目の調査、2月に2回目の調査を実施した。5月から2月までの約1年間の変化を、【表1】に示した。

【表1】アンケート結果(概要): 資質・能力別集計 4件法での調査(ポイントの平均)

1:あてはまる 2:どちらかというにあてはまる 3:どちらかというにあてはまらない 4:あてはまらない	G	H	I	A	B	C	D	E	F
	B/A	C/D	E/F	R5年 5月	R6年 2月	R5年 5月	R6年 2月	R5年 5月	R6年 2月
	1学年	2学年	3学年	1学年		2学年		3学年	
ジブンゴト	98%	95%	97%	3.16	3.10	2.99	2.84	2.88	2.78
課題設定	95%	94%	108%	3.05	2.89	2.84	2.66	2.83	3.06
自己調整	93%	100%	106%	2.96	2.75	2.75	2.74	2.47	2.61
共感相互理解	95%	97%	105%	3.42	3.26	3.47	3.35	3.27	3.43
OneTeam	94%	96%	103%	3.03	2.84	3.00	2.88	2.80	2.88
リーダーシップ	96%	103%	103%	3.01	2.90	2.83	2.93	2.81	2.89
レジリエンス	93%	106%	103%	2.88	2.69	2.60	2.76	2.58	2.65
価値創造	93%	103%	105%	2.91	2.72	2.71	2.78	2.70	2.83
チャレンジ	90%	102%	99%	2.98	2.68	2.67	2.74	2.72	2.69
平均値	94%	100%	103%	3.05	2.87	2.87	2.85	2.78	2.87

【表2】アンケート結果（詳細）：資質・能力別集計 ※4件法での調査

資質能力に関するアンケート（R5年5月—R6年2月比較）

	質問項目	G H I			A B		C D		E F		通番		
		1学年	2学年	3学年	1学年		2学年		3学年				
		B/A	D/C	F/E	R5年5月 時点	R6年2月 時点	R5年5月 時点	R6年2月 時点	R5年5月 時点	R6年2月 時点			
自立（意志がある）	ジブゴト	1	よりよい地域づくりのために自分から積極的に活動したいと思う	96%	91%	93%	3.10	2.98	2.74	2.48	2.40	2.23	1
		2	地域に対して貢献したいと思う	100%	89%	93%	3.13	3.12	2.87	2.56	2.64	2.47	2
		3	自分の将来を真剣に考えている	103%	102%	98%	3.16	3.27	3.36	3.44	3.38	3.31	3
		4	未来は自分で変えていけると思う	93%	97%	101%	3.26	3.02	3.00	2.90	3.08	3.10	4
			98%	95%	97%	3.16	3.10	2.99	2.84	2.88	2.78		
	課題設定	5	日頃から疑問や問題意識を持って生活している	96%	94%	109%	2.77	2.65	2.60	2.44	2.52	2.75	5
		6	理想と現実のギャップを認識できる	92%	100%	104%	3.31	3.04	2.87	2.88	3.12	3.25	6
		7	問題が起きたとき、解決までの手順を考えることができる	96%	90%	111%	2.90	2.78	2.79	2.50	2.72	3.02	7
		8	問題が起きたとき、原因をつきとめようとする	95%	92%	109%	3.23	3.08	3.09	2.83	2.94	3.21	8
			95%	94%	108%	3.05	2.89	2.84	2.66	2.83	3.06		
	自己調整	9	学習している内容を他の物事と結びつけて考える	93%	101%	113%	2.85	2.67	2.53	2.56	2.26	2.56	9
		10	自分に合った学習方法を探そうとする	97%	97%	107%	3.07	2.98	3.02	2.94	2.66	2.85	10
11		最後まであきらめずに理解しようとする	94%	98%	100%	3.16	2.96	2.94	2.90	2.76	2.77	11	
12		計画を立ててから学習に取り組む	87%	104%	103%	2.74	2.37	2.49	2.58	2.18	2.25	12	
		93%	100%	106%	2.96	2.75	2.75	2.74	2.47	2.61			
協働（仲間とともにある）	共感相互理解	13	相手の話を聞くときは、何を伝えたいのか考えながら聞く	96%	93%	110%	3.28	3.16	3.30	3.09	3.06	3.35	13
		14	常に相手の立場に立って理解しようとしている	98%	96%	105%	3.23	3.18	3.36	3.21	3.20	3.35	14
		15	頑張っている人を見ると応援したくなる	95%	101%	103%	3.67	3.48	3.64	3.68	3.50	3.60	15
		16	自分と違う意見も受け入れることができる	92%	96%	103%	3.51	3.22	3.58	3.43	3.32	3.42	16
			95%	97%	105%	3.42	3.26	3.47	3.35	3.27	3.43		
	One Team	17	集団の中で自分の役割を見つけることができる	99%	95%	103%	2.98	2.96	2.94	2.81	2.62	2.69	17
		18	相手の話を受けて質問をすることができる	94%	95%	106%	2.98	2.80	2.98	2.83	2.68	2.83	18
		19	周囲と良い関係をつくるために、行動や発言に気をつけている	92%	97%	102%	3.31	3.06	3.43	3.34	3.24	3.31	19
		20	自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる	89%	96%	101%	2.85	2.53	2.66	2.55	2.66	2.69	20
			94%	96%	103%	3.03	2.84	3.00	2.88	2.80	2.88		
	リーダーシップ	21	安易に他人の意見に流されない	95%	105%	96%	2.95	2.80	2.70	2.83	2.64	2.54	21
		22	困難な状況でも前向きな発言をすることができる	99%	99%	103%	2.87	2.84	2.64	2.62	2.68	2.75	22
23		互いの個性を尊重し協力することができる	96%	101%	101%	3.36	3.22	3.30	3.32	3.36	3.40	23	
24		目的を達成するために、相手を説得することができる	96%	109%	112%	2.87	2.75	2.70	2.94	2.54	2.85	24	
		96%	103%	103%	3.01	2.90	2.83	2.93	2.81	2.89			
創造（逆境からつくり出す）	レジリエンス	25	難しい仕事を与えられても、そこに楽しさを見出せる	97%	114%	103%	2.80	2.71	2.55	2.89	2.52	2.58	25
		26	いまの苦労は将来役に立つと考えている	93%	104%	106%	3.23	3.00	3.17	3.30	3.06	3.23	26
		27	自分はプラス思考である	93%	102%	100%	2.69	2.49	2.34	2.38	2.38	2.38	27
		28	困難なときほど頑張れる	91%	105%	102%	2.80	2.55	2.36	2.47	2.34	2.40	28
			93%	106%	103%	2.88	2.69	2.60	2.76	2.58	2.65		
	価値創造	29	自分には発想力がある	92%	101%	103%	2.82	2.59	2.49	2.51	2.62	2.69	29
		30	自分なりの視点で物事を見ることができる	92%	101%	105%	3.05	2.80	3.00	3.02	2.96	3.10	30
		31	問題を解決するために創意工夫することが得意である	93%	114%	108%	2.77	2.57	2.38	2.70	2.44	2.63	31
		32	過去の経験を問題解決に活かすことができる	97%	98%	104%	3.00	2.92	2.96	2.89	2.78	2.90	32
			93%	103%	105%	2.91	2.72	2.71	2.78	2.70	2.83		
	チャレンジ	33	頑張れば道は開けると考えている	94%	103%	90%	3.25	3.04	3.08	3.17	3.34	3.02	33
		34	失敗を恐れず行動することができる	91%	101%	102%	2.72	2.47	2.43	2.47	2.44	2.48	34
35		何事にも積極的に取り組むことができる	88%	97%	100%	2.93	2.59	2.62	2.55	2.66	2.67	35	
36		自ら行動して現状を変えようとする	87%	108%	107%	3.02	2.63	2.57	2.77	2.42	2.58	36	
		90%	102%	99%	2.98	2.68	2.67	2.74	2.72	2.69			

◆考察

3年生は、1回目の調査でも全体的に高い数値が出ていたが、「レジリエンス」等の粘り強く行動する項目においてのさらなる上昇が見られた。進路実現や難易度の高い探究活動の取組が、これらの結果に影響していると推測する。1・2年生では、様々な経験を積み重ねることで、自信を高めていることがうかがえる。探究活動等を通して、地域の課題に向き合うことや、チャレンジしている大人に出会うことを通して、生徒が自分自身を振り返り、自己内省を深めていったことが数値に影響しているのではないかと推測する。

[3年生]

3年生は、「課題設定」の項目で大きな上昇が見られた。進路実現に向けた探究活動の取組が影響していると考えられる。理想と現実のギャップを認識し、今自分が身に付けなければならない力は何かについて考え、アクションを起こしたり、進路実現のために困難なことがあっても乗り越えようとしたりする経験が数値の上昇につながっているのではないかと推測する。また、「自己調整」でも上昇がみられた。特に、自分に合った学習方法を探そうとする項目が高かったが、進路実現に向け、自分の現状を把握したうえで、学習方法を自分で工夫し実践した生徒が多かったからではないかと考える。一方で、「ジブンゴト」の「よりよい地域づくりのために自分から積極的に活動したいと思う」、「地域に対して貢献したいと思う」という項目が低い数値となった。これは、各生徒の卒業後の進路状況が影響しており、高校卒業後に地元を離れることになった生徒もいることが要因だと推測する。高校卒業後も地元に残ることを全ての生徒に強制することはできないが、一度地元を離れたとしても、「いつかまた戻ってきてみたい」という気持ちが醸成されるような教育活動を行っていく必要があるのではないかと推測する。

[2年生]

2年生は、「レジリエンス」の項目に大きな上昇が見られた。特に、「難しい仕事を与えられても、そこに楽しさを見出せる」が上昇しており、これまで以上に困難なことにも意欲的に取り組むことができる姿が見られる。また、「問題を解決するために創意工夫することが得意である」という項目にも上昇がみられた。併せて、チャレンジの項目全体でも上昇がみられたことから、一年間かけてマイプロジェクトのアクションや、復興研究会、はま研究会、地域活動への積極的な参加を通して、今まで行ったことのない経験に一步踏み出すアクションをした成果であると考えられる。一方で、ジブンゴトの「地域に対して貢献したいと思う」の項目が低い数値となった。これは、2年生から総合的な探究の時間において、自分の興味関心のあることを軸に学習を進めていくカリキュラムになるため、地域のことについて考える時間が少なくなったからであると考えられる。授業の枠に捉われず、実生活の中で地域に目を向けることができる資質能力を向上させていく必要があると考えられる。

[1年生]

1年生は、1回目、2回目のどちらの調査でも「地域に対して貢献したいと思う」の項目が高かった。これは、SIMulation おおつちや大槌発未来塾などで、実際に地域で課題解決に取り組む大人の方々にたくさん出会い、学ぶ機会が多かったからだと考えられる。また、「自分の将来を真剣に考える」という項目に上昇が見られた。多様な生き方をする大人との出会いや進路学習を通して、自分の将来を考える機会が多かったことが影響したと考えられる。一方で、「チャレンジ」の項目は、1回目の調査より低い数値となった。特に、1年生の総合的な探究の時間では、地域課題の分析や解決に向けた方策を考える活動が中心であり、地域課題の複雑さや解決の難しさを理解したことにより、自ら行動して現状を変える難しさに直面したからであると考えられる。

(2) ルーブリックを活用した評価について

校内での探究活動の評価はルーブリックを活用して行っている。評価表を作成するにあたり、大槌高校魅力化構想骨子において策定した人物像の柱「自立・協働・創造」をベースにして三陸みらい探究で育てたい資質・能力を6つ設定した。その上で、6つの資質・能力に関する具体的な評価項目を単元別に作成し、評価を行っている。

学習指導要領解説において示される「生徒に個人として育まれる良い点や進捗の状況などを積極的に評価することや、それを通して生徒自身も自分の良い点や進捗の状況に気づくようにすることも大切である」という指針に則り、項目別の段階評価にあわせ、文章による評価も生徒に知らせている。

大槌高校 三陸みらい探究ルーブリック評価表 (R3~)

【三陸みらい探究で育成する資質・能力の設定】
 ・「大槌高校魅力化構想骨子」にて設定した目指す人物像をもとに、三陸みらい探究で育成する資質・能力を6つに細分化した。
 ・それぞれの資質・能力を3段階でレベル分けし、それぞれ1～3学年終了時の目標状態として記述語を設定した。
 ・それぞれの記述語について、評価項目の観点を2つずつ設定した。

育てたい人物像	資質・能力	内容	レベル1 (1学年終了時の目標状態)		レベル2 (2学年終了時の目標状態)		レベル3 (3学年終了時の目標状態)	
			高校生としての自覚		社会の一員としての自信		進路実現・社会人としての自立	
			記述語	評価項目の観点 (R4)	記述語	評価項目の観点 (R4)	記述語 (R3)	評価項目の観点 (R4)
自立 (意志がある)	1	ジブンゴト	三陸地域の復興や身の回りの出来事や自身の未来に向けた前向きな意志	①自分や地域の理想像について、具体的な考えを述べる事ができる。 ②活動を人任せにせず、みずからすすんで取り組むことができる。	社会や未来を良くしようとする意欲を持ち、志を自信をもって語ることができる。	①自分が関心を持ったテーマについて、自信を持って語ることができる。 ②自分が関心をもったテーマに取り組む意義を説明することができる。	社会の一員として自覚をもち、よりよい未来にしようとする意志を持つ。	①関心領域を通じて、社会にどんな貢献をしたいか説明することができる。 ②自分の強み(大槌)を活かして社会にどんな貢献をしたいかを語ることができる。
	2	課題設定力	課題解決や自己実現のために、取り組むべき課題を明らかにする力	①「理想の姿」と「現状」を考えて、解決したい課題を挙げることができる。 ②課題が生じる原因を論理的に考えることができる。	解決策の実行を繰り返しながら、より重要な新しい課題を設定することができる。	①実行したことを振り返り、次に取り組む課題を設定することができる。 ②課題の設定と解決に向けたアクションを繰り返しながら仮説を深めることができる。	課題に対する関心や周辺知識への理解を深め、熱意をもって取り組みたいテーマを見つけられる。	①関心領域について、解決されるべき課題を説明することができる。 ②卒業後に取り組みたいテーマを自分なりに考え、自信を持って語ることができる。
100 協働 (仲間とともにある)	3	共感・相互理解	価値観や意見の違いをみとめ、前向きに受け入れる力	①相手に安心感を与える聞き方をすることができる。 ②相手の考えの背景を想像することができる。	対立する意見や価値観を取り入れ、その背景を想像することができる。	①他者のテーマに関心を持ち、学び合う雰囲気づくりに貢献することができる。 ②立場や考えが違う人にとってもプラスになるようなアイデアを出すことができる。	価値観の違いをふまえ、身の回りの他者や社会全体がよりよくなるための考えを持つことができる。	①多様な関心領域を持つ仲間と共に学び合う環境づくりに貢献できる。 ②対話を通して、他者の強みを見つけることに貢献できる。
	4	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力	自分の考えをはっきりと伝え、所属する集団の中で協力して活動することができる。	①他のメンバーの活動に関心を持ち、手伝ったり質問したりすることができる。 ②視線を相手の方へ向け、聞き取りやすい声で話すことができる。	自分の意見や考えをわかりやすく発信し、身近な他者を巻き込んで活動することができる。	①周囲や外部の協力を得て活動を行うことができる。 ②全体の流れをストーリーにして、相手に伝わるよう熱心に語ることができる。	①自分の考えを論理性と熱意をもって伝え、多様な立場の人の中で活動することができる。 ②自分の考えを熱意をもって論理的に説明することができる。
創造 (逆境から創り出す)	5	レジリエンス	困難な状況をプラスに考え、前向きに挑戦し続ける力	与えられた環境の中で、ひるまず前向きに物事に挑戦することができる。	①自分の考えをあきらめずに言葉することができる。 ②過去の出来事や体験とつなげて自分の考えを持つことができる。	全く新しい環境や、思い通りにいかない状況でも、物事に前向きに挑戦することができる。	①物事が思い通りに進まないとき、打開策を考えて実行できる ②新しい環境にみずから飛び込んでいくことができる。	①関心領域の専門家や職業のプロに自らアプローチしていくことができる。 ②今までの経験と自分の強み(大槌)との関連を具体的に話すことができる。
	6	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力	すでにある事例を参考にしながら、課題の解決策を考えることができる。	①オリジナリティのある解決策を考えることができる。 ②解決策の効果について具体的に説明することができる。	集めた情報を活用して、自分なりの新しい視点やアイデアを持つことができる。	①自分なりの視点で解決策を考えることができる。 ②取り組みを振り返り、学びや発見を自分の言葉で表現することができる	①関心領域の未来を見据え、理想の姿を自分なりの言葉で説明することができる ②他者にとって役立つ知見を、オリジナリティのある言葉で語ることができる。

参 考 資 料

目標設定シート

魅力化評価システムによる評価結果

令和6年度入学者の在学期間の教育課程

ふりがな	いわてけんりつおおつちこうとうがっこう
学校名	岩手県立大槌高等学校

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業） 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値(年度)
(成果目標) 魅力化評価システムによる調査より本校の育成したい資質能力に合致する9項目を抜粋し平均値化したものに対する肯定的解答の割合						単位:
a	本事業対象生徒:		69%	72%	73%	卒業時80%
	本事業対象生徒以外:		72%			
目標設定の考え方: 主体性、協働性、探究性、社会性に関わる学習が幅広く行われているかを見る。						
(成果目標) 魅力化評価システムによる調査において「生徒の行動実績」の平均値の肯定的解答の割合						単位:
b	本事業対象生徒:		58%	60%	62%	卒業時70%
	本事業対象生徒以外:		62%			
目標設定の考え方: 生徒が高校生活の中で資質・能力をどの程度発揮できているかを見る。						
(成果目標) 地域探究科への入学人数						単位:
c	本事業対象生徒:		60人	62人	61人	R6 61人
	本事業対象生徒以外:		53人	61人		
目標設定の考え方: 地域探究科への入学人数は実合格人数を見る。						

< 調査の概要について >

1. 生徒を対象とした調査について

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全校生徒数(人)			167	177	181
本事業対象生徒数			167	177	181
本事業対象外生徒数			0	0	0

魅力化評価システムアンケート結果		全校 肯定的な回答の割合		
		2023年度 7月	2023年度 12月	変化
質問事項	回答者数	170人	161人	
【主体性に関わる学習活動】				
	自主的に調べものや取材を行う	64.7%	68.3%	3.6
	学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	44.1%	58.4%	14.3
【協働性に関わる学習活動】				
	グループで協力しながら学習や調べものを行う	80.0%	79.5%	-0.5
	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	80.6%	83.2%	2.6
	生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	75.9%	68.9%	-7.0
【探究性に関わる学習活動】				
	自分の考えを文章や図表にまとめる	64.1%	63.4%	-0.7
	活動、学習のまとめを発表する	72.4%	79.5%	7.1
【社会性に関わる学習活動】				
	地域の課題の解決方法について考える	57.6%	67.7%	10.1
	日本や世界の課題の解決方法について考える	40.0%	49.7%	9.7
【主体性に関わる学習環境】				
	失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	76.5%	72.7%	-3.8
	自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	88.8%	88.2%	-0.6
	周りの大人は、自分に関わることに自分で決めることを尊重してくれる	82.4%	81.4%	-1.0
【協働性に関わる学習環境】				
	人と違うことが尊重される雰囲気がある	74.7%	71.4%	-3.3
	立場や役割を超えて協働する機会がある	74.1%	75.8%	1.7
	人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	63.5%	68.3%	4.8
【探究性に関わる学習環境】				
	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	74.7%	73.3%	-1.4
	将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	77.1%	76.4%	-0.7
	周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	85.9%	84.5%	-1.4
	生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	68.8%	75.2%	6.4
【社会性に関わる学習環境】				
	地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	81.8%	83.2%	1.4
	地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	72.4%	80.7%	8.3
	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	62.9%	73.3%	10.4
	地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	44.7%	59.0%	14.3
【主体性に関わる自己認識】				
	自分にはよいところがあると思う	68.8%	65.2%	-3.6
	私は、自分自身に満足している	43.5%	52.8%	9.3
	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	60.6%	65.2%	4.6
	目標を設定し、確実に行動することができる	52.4%	55.3%	2.9
	うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	59.4%	60.9%	1.5
	忍耐強く物事に取り組むことができる	60.0%	60.2%	0.2
【協働性に関わる自己認識】				
	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	88.8%	87.0%	-1.8
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	85.3%	82.6%	-2.7
	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	57.1%	67.1%	10.0
	共同作業だと、自分の力が発揮できる	56.5%	66.5%	10.0

魅力化評価システムアンケート結果		全校 肯定的な回答の割合		
		2023年度 7月	2023年度 12月	変化
質問事項	回答者数	170人	161人	
【探究性に関わる自己認識】				
	家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	49.4%	54.7%	5.3
	地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	51.2%	55.3%	4.1
	学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	64.1%	70.2%	6.1
	情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	66.5%	68.9%	2.4
	勉強したものを実際に応用してみる	54.1%	59.0%	4.9
	複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	32.9%	43.5%	10.6
	一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	69.4%	66.5%	-2.9
	自分を客観的に理解することができる	65.9%	73.3%	7.4
【社会性に関わる自己認識】				
	将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	34.1%	42.9%	8.8
	地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	53.5%	50.3%	-3.2
	将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	54.7%	57.8%	3.1
	私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	35.9%	38.5%	2.6
	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	54.1%	61.5%	7.4
	18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	71.2%	70.8%	-0.4
	将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	66.5%	73.9%	7.4
	将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	39.4%	47.2%	7.8
	住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	44.7%	46.0%	1.3
	自分の将来について明るい希望を持っている	59.4%	65.2%	5.8
【主体性に関わる行動】				
	授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	65.3%	59.6%	-5.7
	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	44.1%	51.6%	7.5
【協働性に関わる行動】				
	自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	57.6%	52.8%	-4.8
	友人などから、意見やアドバイスを求められた	58.2%	55.3%	-2.9
【探究性に関わる行動】				
	授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	44.7%	48.4%	3.7
	公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	47.1%	47.2%	0.1
【社会性に関わる行動】				
	いま住んでいる地域の行事に参加した	37.1%	42.9%	5.8
	地域社会などでボランティア活動に参加した	27.6%	33.5%	5.9
【学習・その他】				
	この学校を中学生におすすめできる	74.7%	68.3%	-6.4
【主体性に関わるウェルビーイング】				
	今の生活全般の満足度	47.1%	52.8%	5.7
	普段のあなたの幸福度	54.7%	54.7%	-0.0
	現在の日常生活に不安や心配事がない	47.1%	46.0%	-1.1
【協働性に関わるウェルビーイング】				
	この学校に入ってよかったと思う	81.8%	77.6%	-4.2
	学校の一員だと感じている	79.4%	80.1%	0.7
	大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	74.7%	70.8%	-3.9

魅力化評価システムアンケート結果		全校 肯定的な回答の割合		
		2023年度 7月	2023年度 12月	変化
質問事項	回答者数	170人	161人	
【探究性に関わるウェルビーイング】				
	自分の将来について明るい希望を持っている	59.4%	65.2%	5.8
	自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	72.9%	74.5%	1.6
	自分の将来に向けて大切だと思ふことを実行している	69.4%	71.4%	2.0
【社会性に関わるウェルビーイング】				
	将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	54.7%	57.8%	3.1
	住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	44.7%	46.0%	1.3
	この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	44.7%	44.7%	0.0
	日本の将来は明るいと思う	29.4%	39.8%	10.4

令和6年度入学者の在学期間の教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1学年 (共通)	現代の国語		言語文化		歴史総合		数学Ⅰ			個別最適 数学α		科人		体育		保健	家庭基礎		情報Ⅰ		英語コミⅠ			個別最適 英語α		音美書Ⅰ		総探	LHR	
										数学A														論理表現Ⅰ						

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
2学年	理系(履修要件有) 理系(履修要件無)	公共		地理総合		化学基礎		保健		体育		論理国語		英語コミⅡ		論理表現Ⅱ		化学基礎	数学Ⅱ			生物基礎 物理基礎		数学B		古典探究 音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ		総探		LHR				
	文系(CEFR有) 文系(CEFR無)													個別最適 英語β				化学基礎 プラス				ひよっこり 表現島		日本史探究 世界史探究										
	専門(高看) 専門(理学)													E/パス(英語)				保健 プラス				個別最適 数学β			簿記						情報処理			
	専門(普通) 専門(公務員)													デュアル(インターンシップ)																				
	就職																																	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
3学年	理系(履修要件有)	体育		論理国語		英語コミⅡ		化学		Oラボ		数学Ⅲ		数学C		生物 物理			論理表現Ⅱ		古典探究 音楽Ⅲ 美術Ⅲ 書道Ⅲ		総探		LHR							
	理系(履修要件無)							日本史探究(増単) 世界史探究(増単)		国語実践β		数学探究α		国実α																		
	文系(CEFR有) 文系(CEFR無)							数学探究β		理科探究		まちづくり 探究		*倫理 *政治経済												*くらし math						
	専門(高看) 専門(理学)							個別最適 英語γ		総合実践		国探	Oラボ		個別最適 数学γ											ビジネス 基礎		保育基礎				
	専門(普通) 専門(公務員)																															
就職																																

地域みらい学(学校設定科目)
 個別最適科目等
 学校設定科目(探究科目含む)
 総合的な探究の時間
 必修科目
 *(履修選択可能)
セルフラーニングタイム

文部科学省指定事業

令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業

(普通科改革支援事業)

研究実施報告書 第2年次

令和6年3月発行

発行者 岩手県立大槌高等学校

〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌 15-71-1

TEL 0193-42-3025 FAX 0193-42-4966

学校 HP <http://www2.iwate-ed.jp/oht-h/>

学校 note <https://oht-hs.note.jp/>

印刷所 川嶋印刷株式会社